

広島県情報公開・個人情報保護審査会（諮問（情）第 324 号）

第 1 審査会の結論

広島県知事（以下「実施機関」という。）が、本件異議申立ての対象となった行政文書について、不存在であることを理由に不開示とした決定は、妥当である。

第 2 異議申立てに至る経過

1 開示の請求

異議申立人は、平成 19 年 10 月 28 日付けで、広島県情報公開条例（平成 13 年広島県条例第 5 号。以下「条例」という。）第 6 条の規定により、実施機関に対し、行政文書開示請求に関する郵便物（以下「本件通知文書」という。）の発送方法を東広島地域事務所建設局竹原支局が「配達記録」扱いとしている部内規程及びその根拠（以下「本件請求文書」という。）の開示の請求（以下「本件請求」という。）をした。

2 本件請求に対する決定

実施機関は、本件請求文書について、不存在を理由とする行政文書不開示決定（以下「本件処分」という。）を行い、平成19年11月13日付け東広建竹第254号で異議申立人に通知した。

3 異議申立て

異議申立人は、本件処分を不服として、平成19年11月18日付けで、行政不服審査法（昭和37年法律第160号。平成26年法律第68号による全部改正前のもの）第 6 条の規定により、実施機関に対し異議申立てを行った。

第 3 異議申立人の主張要旨

1 異議申立ての趣旨

本件処分を取り消し、開示を求める。

2 異議申立ての理由

異議申立人が、異議申立書で主張している異議申立ての理由は、おおむね次のとおりである。

本件処分は、本件請求文書を隠匿する目的で強行された不当な処分である。

東広島地域事務所建設局竹原支局は、橋梁設置申請に係る不服申立てと同支局が所掌している事務に関する行政文書開示請求の手続は、別個の行為であると認識しているものと思料されることから、本件請求文書を開示請求の対象とした。

しかし、実施機関は、本件処分において、本件請求文書を「作成又は取得していない」という虚偽の理由をもって隠匿しようとして画策したものであり、裁量権の濫用の事実を闇に葬り去ろうとするものである。

このように、広島県の他の部署とは異なる取扱いをしておきながら、その部内規程及びその根拠が記載されている行政文書は作成していないという理由をでっち上げ、裁量権の濫用による卑劣な行政手法をもって情報公開制度を自らに都合よく運用することを常道としている実施機関に対して嚴重に抗議する。

以上のことから、速やかに適正に開示するよう強く要求する。

第4 実施機関の説明要旨

実施機関が理由説明書で説明する本件処分を行った理由は、おおむね次のとおりである。

文書を郵送で施行する場合、その方法としては、普通郵便、配達記録、簡易書留、書留などが想定される。

実施機関が郵送で施行する文書については多種多様にわたり、その全てを類型化し、その施行方法を定めることは、文書の性格や受取人が様々であることから、現実的ではなく、ある文書について、郵送の施行方法をどれにするかは、当該文書の性格等を踏まえて、当該発送担当部署が、その都度判断しているのが実態である。

したがって、本件通知文書に関し、発送方法の種別について定めた部内規程等は存在しない。

以上のとおり、本件請求文書が不存在であるために開示することができないとした本件処分は妥当である。

第5 審査会の判断

1 本件請求について

本件請求は、実施機関が異議申立人に発送した本件通知文書について、実施機関が発送方法を配達記録扱いとしている部内規程及びその根拠の開示を求めるものである。

実施機関は、本件請求文書を作成又は取得していないとして本件処分を行ったため、以下、その存否について検討する。

2 本件処分の妥当性について

実施機関は、文書を郵送で施行する場合、その方法としては、普通郵便、配達記録、簡易書留、書留などが想定されるが、実施機関が郵送で施行する文書については多種多様にわたり、その全てを類型化し、その施行方法を定めることは、文書の性格や受取人が様々であることから、現実的ではなく、ある文書について、郵送の施行方法をどれにするかは、当該文書の性格等を踏まえて、当該発送担当部署が、その都度判断しているのが実態であり、本件通知文書に関し、発送方法の種別について定めた部内規程等は存在しない旨説明する。

当審査会において、条例、広島県情報公開条例施行規則(平成13年広島県規則第17号)、広島県情報公開事務等取扱要綱(平成13年3月29日制定)などの情報公開関係規程及び広島県文書等管理規則(平成13年広島県規則第31号)、広島県文書等管理規

程(平成13年広島県訓令第5号)などの文書関係規程その他の規程を見分したところ、本件通知文書のような行政文書開示請求に関する文書について、郵送による場合、その発送方法の種別を定めた規程は存在しないことを確認した。

なお、実施機関に確認したところ、配達記録や書留など特殊扱いする文書等の発送については、実施機関の総務課が「文書発送ガイドブック」というマニュアルを作成し、その中で、『特殊扱い』とする文書等の発送基準を記載しているものの、文書等の内容や重要性等を考慮して、各担当部署において、その都度、書留、簡易書留、配達証明、配達記録、速達などのうち真に必要な発送方法を選択することとしているとのことであった。

よって、本件通知文書に関し、発送方法の種別について定めた部内規程等は存在しないとの実施機関の説明は、不自然・不合理ではない。

以上のことから、実施機関が本件請求文書を作成又は取得していないため、これを不存在として本件処分を行ったことは妥当である。

3 その他

異議申立人はその他種々主張するが、いずれも当審査会の上記判断を左右するものではない。

4 結論

よって、当審査会は、「第1 審査会の結論」のとおり判断する。

第6 審査会の処理経過

当審査会の処理経過は、別記のとおりである。

別 記

審 査 会 の 処 理 経 過

年 月 日	処 理 内 容
平成20. 1. 22	・ 諮問を受けた。
平成30. 4. 9	・ 実施機関に理由説明書の提出を要求した。
平成30. 8. 7	・ 実施機関から理由説明書を収受した。
平成30. 9. 4	・ 異議申立人に理由説明書の写しを送付した。 ・ 異議申立人に意見書の提出を要求した。(提出なし)
令和元. 11. 22 (令和元年度第8回)	・ 諮問の審議を行った。
令和元. 12. 20 (令和元年度第9回)	・ 諮問の審議を行った。

参 考

答申に関与した委員（五十音順）

【第3部会】

金 谷 信 子	広島市立大学教授
中 根 弘 幸 （ 部 会 長 ）	弁護士
山 田 明 美	広島修道大学准教授